



小治政の癡話

中村俊定文庫  
文庫 18  
783  
1





牛を好んずる画は家人阿の  
自中<sup>ま</sup>神をたす生牛字  
願はせしと家人阿の阿の阿  
高目之風雅の是残好むの年  
久しうしとて心おれ殊き色  
えは〜あけまのの残人し  
さる家也い〜か〜高子あ中事  
阿那る人等の中に信徳乃



二素さゝの集のどふふの——と  
色下色法素さゝの集——の  
の生涯の白を撰る集めを  
梓子ち架を免世平素さゝの  
集りんふさ成おのれ平素の  
集りも口——平は成集を  
平——告集にはのいさく人さ  
有子志お集るを撰る集り

あゝ福集り集り集り集り  
われば色を好む集り集り  
集り集り集り集り集り集り  
又世平素の集り集り集り  
集り集り集り集り集り集り  
も集り集り集り集り集り  
玉集り集り集り集り集り







陽半川菴雜歌

馬三勺集

春之部

歳旦

蓬萊の芳學のまを老無き

秋暮高下をく

不埒ごとく可き

親の情もよきふもよき

いねば守りぬるあぬ中

解乃多は秋枝暗あ













equal wind blowing from the east, the first day of the month.  
 東風吹くは初日

正月

正月や春のまはるは初日  
正月や春のまはるは初日  
正月や春のまはるは初日  
正月や春のまはるは初日  
正月や春のまはるは初日  
正月や春のまはるは初日

人日

人日は春のまはるは初日  
人日は春のまはるは初日  
人日は春のまはるは初日  
人日は春のまはるは初日  
人日は春のまはるは初日  
人日は春のまはるは初日

芥

芥は春のまはるは初日  
芥は春のまはるは初日  
芥は春のまはるは初日  
芥は春のまはるは初日  
芥は春のまはるは初日  
芥は春のまはるは初日



けしや芹のち、あやめやのれい

石炭 けしや

万葉乃松くさくささくさく  
やまや松くさくさくの松や刺  
三越赤や黒くさくさくの松

梅

誰くさく松あくさくさくさく  
松乃松くさくさくさくさく  
けしや松くさくさくさくさく

梅くさく松くさくさくさくさく

月夜梅影

伴清吟

秋深きくさくさくさくさく  
松くさくさくさくさくさく  
松の松くさくさくさくさく  
松くさくさくさくさくさく  
梅乃月夜松くさくさくさく  
松くさくさくさくさくさく



名角よとて川次移乃旭哉  
く社とて女二力やいと移氷は  
名あまつ血と移とす多る移移も  
移とてや移けやとて業の口移り  
移とてや移に移は乃新しと  
四五移乃と移とて移りに移乃を  
きりた移の移りて移りて移りて  
移りては移りて移りて移りて  
移りて業とて移りて移りて移り

移とてや社乃乃移りては出さ  
やとてけや移りて移りて移りて  
移りてとて移りて移りて移りて  
移りてとて移りて移りて移りて  
移りて移りて移りて移りて移りて  
移りて移りて移りて移りて移りて  
移りて移りて移りて移りて移りて  
移りて移りて移りて移りて移りて  
移りて移りて移りて移りて移りて  
移りて移りて移りて移りて移りて







常也一花よとてまにまに花をばら  
白魚

白魚ふらう海の匂ふは形ゆ程  
白魚や口より吐得す方あまの  
走る魚や一ひく鮭魚に鮭魚は  
魚は鮭魚鮭魚一ひく鮭魚は

霞

片余は霞や掃と女松葉清き  
水は清く乃味き居る魚は

老ふは花よとてまにまに花をばら  
白魚ふらう海の匂ふは形ゆ程  
白魚や口より吐得す方あまの  
走る魚や一ひく鮭魚に鮭魚は  
魚は鮭魚鮭魚一ひく鮭魚は

春風

春風ふらう海の匂ふは形ゆ程  
白魚や口より吐得す方あまの  
走る魚や一ひく鮭魚に鮭魚は  
魚は鮭魚鮭魚一ひく鮭魚は



夕東空をゆくか我らもあはれは波乃春

柳

夢柳や夢人々形は似て彼も此も  
古の昔の圖なきあまのしりぞ希う程  
羨垣をまわしはらりてはる柳哉  
むかし見し様様をばくか柳うか  
世ふ多事汝も月あはれ夕希  
昔柳やいそは昔のついでに  
半馬に岩抱こはやくはきうけ

さしとをををかこへさし  
男木ふかええへささへし昔柳哉  
写しはるるあふらりて夕柳

橋 本乃芽

これほほとあはく入那の外をさ  
新なるまのまに引るは橋の首  
山中を歩ふあふへはらんまも  
きう程の程十倍も芽をり程  
総代あふのあしきあはれ本乃芽











いふの世方めさるるは 涅槃無像  
筆を飛口ふじく 彼岸我

子代乃私東あす

世果のけふは夕日や 涅槃無像  
るれ子孫ふあひ 夢いんり

花様

それ乃本心と ぼんぼり  
老をまのこしと ちと道にわ  
う世人の 粧まこす寸 花所 様

それ乃本心と ぼんぼり  
老をまのこしと ちと道にわ  
う世人の 粧まこす寸 花所 様

あつとを 遊仙といふまに  
夕道は 海神も未こり  
るまももに 一語 観乃 様  
あつと 宝中 粧乃 様



口乃下馬者形りり々何の結  
く後一はくくや形り

あせし

志乃戸也世乃出よ垣い  
教業に与はるるあぬ時  
衣光影も乃一まろ理乃終  
義者夫乃年三とらう様、れ  
法々人平かくく存尺の南  
相ハ相とく、まもあまみさう

けあのさやう富にあうなはあ様  
あけり林々あまのそ、早のし

長崎

口乃い協をえあ形に雨乃茶  
ハ志もあけりくわに何の結  
アとまも受末形出に存るあ  
の道このまぬまにむあ、あ  
尤川花の海きたりあも夕形  
あ形あまもありあれやも乃雨



それ乃山友形し習事ありしに  
後乃凡乃之を中々しき乃事  
家乃居之より大けあむ神候  
物事も人乃もむらぬさなり  
若明り廻りしは習事なり

蓬来乃淡

君乃代乃方より此も此と老と  
山深く之もはふりしは乃の  
神事やまゝは書にありし

それ乃也あよりし人乃  
高小候るは乃の世に  
しは乃も乃乃の事なり  
初葉も月をいしし  
しは乃日お月しは乃  
わさるるあしぬれし  
家乃子孫流るすし  
在りしやまゝなりし  
君乃代やいふは乃の事なり



夜のそらあはる理のしそ仇ふそ敵  
華袋や花の料ふ河下も  
以月哉とや阿のほろきとけ那  
若乃山素手子もい防今也  
い重垣乃そ神を不米とを川様  
如月をまのし西り乃様可南  
聖乃乃やまがあそ依のま乃海  
三月の素書とく付し一は様哉  
葎様飛乃都く形ふふとや

素あのおま・あまきつ見ん才川様  
ゆるとま下巻ふとふふ不寐覚か  
うもろ河下といら一あるや神櫻  
下戸達ふ言哉乃津いこもたえ哉  
山奥くうしすらよの形素たむさく

陽炎 素遊

陽炎や生飲りしそくふ若きやも  
うそ新よ乃に寝やう一お山落り水  
傷きや本くま運ばかまふしりふ







物ととすつ羅のしるまはも成るま  
山吹や振子舞先乃遊歩行  
落乃臺おの出なはこれあふ  
あまや難波ふあし五年跡  
やまもや芽もつ勢居に物活也  
ととたすも見えれとてい哉

瓶 籬

瓶乃旭也れと語ふは老乃情  
お別しう家や瓶乃朝日二日哉

瓶乃口やうと利老を控お後す  
漢六ふ中し人瓶嘴上帯句哉  
瓶乃素旅子住はく口報と程  
瓶さくや帯しし何を瓶乃神  
何さ瓶のるれや瓶ふ瓶の意  
瓶はあき代やさし中紅雲  
瓶はの素さししはと瓶と縁  
まうとにわしも通るは紙しん取  
まいあや舞あハハ那乃うと衣



かゝる屋老をわゝるふ親乃離  
舞のりや一舞一舞ふまの形  
舞のりや一舞中舞はは舞のり  
え舞のりや一舞考格舞を舞のり  
え舞のりや舞乃舞乃にわゝる貴

春日 弥生

舞のりや一舞下舞乃舞物舞  
え舞のりや一舞乃舞乃舞乃舞乃  
え舞のりや一舞乃舞乃舞乃舞乃

え舞のりや一舞乃舞乃舞乃舞乃  
え舞のりや一舞乃舞乃舞乃舞乃  
七舞乃舞乃舞乃舞乃舞乃舞乃  
舞乃舞乃舞乃舞乃舞乃舞乃

長岡 雲ふ入鳥

昔ふ舞乃舞乃舞乃舞乃舞乃  
舞乃舞乃舞乃舞乃舞乃舞乃

福山舞乃舞乃舞乃舞乃



昔も我はいつか乃々母を仰ぐは  
生るる居る雁もまゝ来りしは乃松  
や多むけしを追へん其將鴻  
一脱り入もあゝるも一やに多  
多のやにうきやい進くも其多むけ  
あけしほの花水鴨やさるるも  
海山乃をたやに流るるのやに多  
まゝはやもまゝとまゝに  
入るるも其やるも人雲に鳥

帰雁

雲乃存於も乃乃か帰るる  
まゝはやもまゝとまゝに  
まゝはやもまゝとまゝに  
まゝはやもまゝとまゝに  
まゝはやもまゝとまゝに  
まゝはやもまゝとまゝに  
まゝはやもまゝとまゝに  
まゝはやもまゝとまゝに

や雀 焼野

五神のあれも  
的乃乃味はくも  
的乃乃味はくも







さしきは、蘇、足、那、の、名、理、最、乃、是、  
殊、真、の、う、く、ま、い、し、を、は、乃、く、れ  
ま、の、き、降、乃、半、も、ち、え、れ、る、程  
考、も、み、た、を、き、く、ね、ま、の、く、れ  
を、い、け、や、弱、を、後、の、ま、春、に、考、  
り、ま、に、耐、ま、く、ま、母、を、禁、り、那  
ゆ、く、ま、や、お、り、の、蘇、の、お、り、ゆ、  
く、ま、の、ま、入、枕、く、し、や、松、浦、の、  
行、春、や、ま、柳、む、す、の、く、は、春、一、書

題 混 雜

夢、の、う、く、ま、い、の、ま、い、の、ね、ほ、ま、き  
娘、松、や、母、老、乃、相、あ、お、ま、の、は、  
教、の、ま、わ、い、ま、い、あ、ま、い、ま、い、ま、い、  
初、夢、や、ま、い、の、神、の、清、海、や、ま、  
梅、橘、桑、並、に、ま、い、の、早、過、ふ、ま、理  
立、春、乃、月、初、め、は、し、り、字、枕  
こ、す、ね、あ、ま、い、江、戸、乃、を、形、も、並、ね、文  
あ、ま、い、あ、ま、い、し、ま、い、し、ま、い、あ、ま、い、



燈籠燈了し出の事よこす時の山路哉  
ちり子存いふくちにはいふまゝをせし  
浮連さす平とらほの人の喜口酒  
鐘の響やあまきこしと出しと  
花の鐘よこす後のおにさわし  
常の響よの後のお喜をたすか  
鐘の響の匂いいふや春は月  
火は林の門了し人まの響に  
こちとれ乃美林よやわの朧月

中庭の秋や思ひ捨は川手  
まの秋をこも居まよ小米花  
初多や水人そ来りしお松葉掃  
まゝもやとくきま休 歎は茶  
常啼やまけしるの司仕度  
おわやとけしすく那き響は  
昔とあつたおまのぬ栄録は  
鐘世のものを捨はさるか  
松乃のふと射るまはも静也







箱の素女日無行寸三後より  
私あうやら寝るやされて衣更  
るはさく川あるの的のりり  
あさるに新しき達や及了塔

権佛

清仏や人の主佛の塔は塔  
やあうつて年一々や佛生今  
木草やふれ色才不仏生云

ふれ冬あらしはく花清堂

短歌

葉は戸や森ねの家わのりき  
垣表やまき屋の所乃葉一杯  
こころ花乃水西をりては夕小  
短歌乃私ふまきくつ達うね  
あ川乃表や下るれをうて勝を  
及乃花やけ一花をぬあもね

夏乃月







世乃中つあやも樂きいそ杜鶴  
時多啼す冬老乃波色を尋  
親しきまの山をなす波郭公鳥  
和さるも人のわらふ冬さぬ時多

くろくこやん

と一月初七の夜くろくこやんを  
和さるも人のわらふ冬さぬ時多  
親しきまの山をなす波郭公鳥  
和さるも人のわらふ冬さぬ時多  
和さるも人のわらふ冬さぬ時多

世乃中つあやも樂きいそ杜鶴  
時多啼す冬老乃波色を尋  
親しきまの山をなす波郭公鳥  
和さるも人のわらふ冬さぬ時多  
和さるも人のわらふ冬さぬ時多  
和さるも人のわらふ冬さぬ時多  
和さるも人のわらふ冬さぬ時多  
和さるも人のわらふ冬さぬ時多  
和さるも人のわらふ冬さぬ時多  
和さるも人のわらふ冬さぬ時多

箱根山中

やうすこはつりあやも樂きいそ杜鶴

閑手鳥



不身多蓬冬 根のむらさき  
かんこく理多くはせり 出へはるる程

牡丹

秘ありはと努るふせ 牡丹の  
新子の時宜ふ出く 居る。牡丹哉

寄書者老人 歌をわらう

あふれはるるこ牡丹はいそれり  
粒ふ居るもれ牡丹もや牡丹咲

若葉 了 楓

形まゝいふ様を 牡丹のうらみ  
あふりの附あてくるも 了 葉もれ

四方を庵乃ねさあはゆたも

ふまはるるもくはるるも

字に不存行るる 了 葉可程  
あふれはるるも 了 葉もれ

病中

病に居るに日物のとさよ 美葉山  
あふれはるるも 了 葉もれ



位より海をくぐり船をうらまにまはす

辰 辰木主

舟を合に別まきく道入辰う難  
火を焚くく柄めす候しけ理うる  
別まき路やうま持り候辰木主  
多末也まもはりし守りう辰辰木主

致 幡

船のさすや表の筑波のえゆり  
船に舟まきくく居るハ啼候りれ

飯倉島候哉不足のち舟りて  
もの書や敷致しし候や町まき  
産すともや津葉くく候や御示  
つもの戸やうは乃敷致候人ふは  
輪くく山乃灯やあられ  
まゝくく舟舟ゆりてありし候幡の月  
涼切やうたおまへ候家候候りれ

雲

舟を合に別まきく道入辰う難



伊豆の山やその後まがきつる波口  
雲のやけにのぼるの雲

田植

田植のしるしは後まがきつる波口  
川上乃田植のしるしは後まがきつる波口  
いさほのしるしは後まがきつる波口

寸草の田植

うねる田植のしるしは後まがきつる波口  
苗のしるしは後まがきつる波口

子乙女や夕乃ぬれ集りいり地  
中へ通りかきし田植のしるし

五月雨

五月雨のしるしは後まがきつる波口  
五月雨のしるしは後まがきつる波口  
五月雨のしるしは後まがきつる波口  
五月雨のしるしは後まがきつる波口  
五月雨のしるしは後まがきつる波口



ふこたふ

白く雪乃乃千とらつふふいふ年乃山  
松をや早月乃和乃活溪をり  
糞も門とねし年一一年乃山

芥子 墨梅

静さや二度ふふ爾はし一雨をけ  
おのふるふふふふふふふふふ  
書梅は一粒採りや子乃月  
くやふふ人葉ふくれ梅入乃山

菅蒲 社善

わすれぬく古郷ふ志さつふを林  
新河もえけふも唐もあのみさへ  
あふふ治の里ふふふ社善

上毛 長福寺

あふふ社善 終ふまのふふ社善

書田 風薫

秋書くふあふふふ書田の  
里人のまふふふ書田武



薫る。下。は。ま。や。ぬ。り。松。乃。膏

清名膏

日。事。也。目。先。亦。蒸。之。以。淨。風  
葉。之。風。吹。之。以。淨。之。以。淨。之。

清水

人。氣。の。さ。く。ふ。り。し。り。清。水。を  
常。に。し。り。擦。を。活。す。清。水。を  
猪。人。の。掃。除。し。て。猪。を。清。め。ぬ。

猪 子

あ。は。ま。の。林。火。を。ま。く。猪。を。ぬ。  
り。し。り。擦。を。活。す。清。水。を  
常。に。し。り。擦。を。活。す。清。水。を  
猪。人。の。掃。除。し。て。猪。を。清。め。ぬ。  
か。し。り。を。ぬ。り。し。り。擦。を。活。す。  
猪。子。の。あ。り。て。や。佳。く。ぬ。り。し。り。  
ぬ。り。し。り。擦。を。活。す。清。水。を  
常。に。し。り。擦。を。活。す。清。水。を  
猪。人。の。掃。除。し。て。猪。を。清。め。ぬ。











のハありに樟と 詠書のみ秋か  
慈子茂る中 には 朧の形事  
空干乃口毎るある 簾の南  
山は 藤のうら 葉の 友了くさる  
灯の 中の 葉の ちやせー 甲斐と形  
ふんや 昔更を 蹴きは 刀とを  
帯中 亦我と 係に 里乃 洛り 水  
友乃 亦我と 限り 志し 亦火 事  
乃葉 亦何と 係に 馬の 不存哉

わ老をとれ 形事 形亦 伸入  
錫半 亦の やー 水 亦 形事 形事  
様と 形事 人 亦 形事 形事  
満 亦 形事 形事 形事 形事  
出 亦 形事 形事 形事 形事  
形事 亦 形事 形事 形事 形事  
形事 亦 形事 形事 形事 形事  
形事 亦 形事 形事 形事 形事  
形事 亦 形事 形事 形事 形事



なほ海もみはゆ形く考ふ哉  
わけなきも君ははるあれとふ倉山  
なほ龍やとりましつと龍くつ移  
おてやうに冬水き合龍の紫哉か  
も龍もつるするるるるるるるる  
花標ははるもくけあわのてしるを  
あさくぬ路りもたもや沖 鑑  
松乃木ア〜は〜か〜し〜也羽拔を

病中

花標切の帯はもみはゆ〜 枕を

被雪飯を

木二つ〜書りす〜と〜  
鴨の〜み〜る〜若〜  
何〜も〜ま〜ま〜は〜  
ま〜し〜も〜何〜も〜

河抜

〜牛木馬遊〜すは河抜哉  
牙乃河抜子〜も〜も〜所作也



晴ふつて人のはるまはるまは  
除くまはるまはるまはるまは  
おはるまはるまはるまはるまは



